

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
国語	現代文A	2	3	セラミック デザイン 電気 機械	必修	「現代文A改訂版」 大修館書店

### 1. 学習の到達目標

- 1 近代以降の様々な文章を読み、文章を読む楽しさを味わい読書に親しむ。
- 2 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。
- 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する理解を深める。
- 4 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
評価の規準	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立てるための音声文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。
評価の方法	授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、基礎力テストなどを総合的に判断して評価します。		

### 3. 教科からのメッセージ

人間は言葉によって思考します。言葉を理解する能力は人間の知的活動の根幹となるものです。また、就職試験、進学試験では、国語の基礎的な知識や表現力が必ず問われています。その意味でも、ぜひしっかり勉強して欲しいと思います。

# 令和5度 現代文A指導計画案

現代文A	セラミック・デザイン 電気・機械	2単位
------	---------------------	-----

## 1 学習計画

学期	学 習 内 容	学期	学 習 内 容	学期	学 習 内 容
1 学 期	1 ことばと社会 ○小川洋子 「きっと叶いますよ」 ○長谷川權 「和の思想、間の文化」 ○上田恵介 「ウサギの耳はなぜ赤い」 ○川上弘美 「排球、そして千利休」	2 学 期	1 ことばと文学 ○吉本ばなな 「ざしきわらし」  ○中島敦 「山月記」  ○夏目漱石 「ころも」	3 学 期	1 ことばと社会 ○立松和平 「幸せの分量」  ○山田昌弘 「家族化するペット」
	2 基礎力テスト (1回10分・月1回) 言語活動 ・情報の探し方		2 基礎力テスト (1回10分・月1回) 言語活動 ・意見文の書き方		2 基礎力テスト (1回10分・月1回) 言語活動 ・研究発表のしかた

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
国語	国語表現	2	3	セラミック デザイン 電気	選択	「国語表現」 大修館書店

### 1. 学習の到達目標

- 1 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。
- 2 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現する態度を育てる。
- 3 国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
評価の規準	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。	表現と理解に役立てるための音声文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。
評価の方法	授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、基礎力テストなどを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

人間は言葉によって思考します。言葉を理解する能力は人間の知的活動の根幹となるものです。また、就職試験、進学試験では、国語の基礎的な知識や表現力が必ず問われています。その意味でも、ぜひしっかり勉強して欲しいと思います。

# 令和5年度 国語表現指導計画案

国語表現	セラミック・デザイン 電気・機械	2 単位
------	---------------------	------

## 1 学習計画

学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容
1 学 期	<p>1 書いて伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○整った文を書く</li> <li>○わかりやすい文を書く</li> <li>○文のつなぎ方</li> <li>○絵や写真を見て書く</li> </ul> <p>2 自己PRと面接</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○効果的な自己PR</li> <li>○志望動機をまとめよう</li> <li>○面接にチャレンジ</li> </ul>	2 学 期	<p>1 小論文・レポート入門</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小論文とは何か</li> <li>○反論を想定して書く</li> <li>○統計資料を読み取って書く</li> <li>○レポートを書く</li> </ul> <p>2 メディアを駆使する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○通信文を書き分ける</li> <li>○電話を使いこなす</li> <li>○ネット社会とコミュニケーション</li> <li>○メディアと情報</li> </ul>	3 学 期	<p>1 声とコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リーダーズシアターを開こうー朗読劇の楽しみ</li> <li>○ショートスピーチをしよう</li> </ul> <p>2 会話・議論・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相手や場面に応じた会話</li> <li>○建設的な議論の進め方</li> <li>○プレゼンテーションの工夫</li> </ul>

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
地理歴史	地理A	2	3	全科	必修	世界に目を向け、地域に学ぶ 第一学習社

### 1. 学習の到達目標

現代社会に生きる私たちにとって、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養うことが大切です。地理Aでは、現代世界の地理的な諸課題について地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けることが目標です。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の規準	地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立ち諸事象を位置や空間的な広がりの中で理解すると共に、各地域の課題や将来像について考えようとする。	地理的事象から課題を見出し、諸地域を比較し関連づけて追究し、判断する。さらに地球規模の諸課題を国際協力によって解決していくための地理的認識を深めようとする。	地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどを通して地理的事象を見だし、考察し、調査結果をまとめ、表現している。	地理的事象から各地域の特性を理解し、作業的、体験的な学習を通して地理的技能を身につけ、それを系統的に使いこなすことができる程度の知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

様々な国との関わりが不可欠である現代社会において、まず「他の国や自分の住む国や地域を知ること」を通して、世界の国々に興味をもつとともに、今後の日本や地域の在り方など自身が生きる環境を地理的視点から考えてもらいたいと思います。

	目 標	現代世界の地理的な諸課題について、地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	
月	大項目	中項目	時数
4	第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 1章 地球儀や地図でとらえる現代世界	①球面で世界を考えよう ②世界地図の特徴を知ろう ③世界観の広がりとは地図 ④国家の領域と領土問題 ⑤国家をこえた結びつき ⑥交通機関の発達と縮小する地域世界 ⑦情報・通信で一体化する世界 ⑧人「もの」・資本で結びつく世界	6
5	2章 世界の人々の生活を取りまく地球的環境	①さまざまな環境のなかで暮らす人々 ②世界的視野から見た地形 ③さまざまな地形と生活 ④世界的視野から見た気候 ⑤世界の気候と生活 ⑥世界の民族のさまざまな生活・文化 ⑦生活・文化を支える産業の地域性	6
6	3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	①東アジア ②東南アジアの暮らしを学ぶ ③南アジアの暮らしを学ぶ ④北アフリカ・西アジア・中央アジアの暮らしを学ぶ ⑤仲南アフリカの暮らしを学ぶ ⑥ヨーロッパの暮らしを学ぶ ⑦ロシアの周辺諸国の暮らしを学ぶ ⑧北アメリカの暮らしを学ぶ ⑨中央南アメリカの暮らしを学ぶ ⑩オセアニアの暮らしを学ぶ	8
7			4
9			8
10	4章 さまざまな地球的課題	①地域の違いとつながりに注目する ②人口問題 ③食料問題 ④都市・居住問題 ⑤資源・エネルギー問題 ⑥地球環境問題 ⑦地球的課題への取り組みと国際協力	10
11	第2編 生活圏と諸課題の地理的考察 1章 日常生活と結びついた地図	①地図をもって生活しよう ②身近な地図を読みこなそう ③地図表現について考えよう ④地形図を活用しよう	10
12	2章 自然環境と防災	①日本の自然と生活 ②自然環境に備えた暮らし	6
1	3章 生活圏と地理的諸課題と地域調査	①地域調査の方法 ②水の恵みのまち「川北町」を考える	8
2			4







1 月		<p>3 社会変革の倫理を求めて</p> <p>① 功利主義</p> <p>② 社会主義思想</p> <p>③ 実証主義と進化論</p> <p>④ プラグマティズム</p> <p>4 新たな人間像を求めて</p> <p>① 主体性の回復を求めて</p> <p>② 現代の実存哲学</p> <p>③ 人間観と言語観の問いなおし</p> <p>5 自然や科学技術と人間とのかかわり</p> <p>① 近代的自然観</p> <p>② 自然との調和</p> <p>6 民主社会の成熟のために</p> <p>① 差別と偏見のない社会</p> <p>② 社会参加と奉仕</p> <p>③ 公共性のための場を開く</p>	<p>○近代資本主義社会の問題とその克服について、功利主義、社会主義の思想を理解して、考えを深める。</p> <p>○人間社会の変革の思想について、実証主義や進化論、プラグマティズムの思想を理解して、考えを深める。</p> <p>○人間や社会の在り方の急激な変化による近代的な理性への問いなおしとし、実存哲学、フランクフルト学派、構造主義など現代思想の人間観・言語観を理解する。</p> <p>○環境問題や生命に関わる倫理的課題の解決のために、科学技術の基礎にある自然観の再検討が必要であることを、生命への畏敬の念について考慮しつつ理解を深める。</p> <p>○民主社会の実現のために、あらゆる差別や偏見などの解決が求められること、またそれらとどのように関わっていくかを考える。</p> <p>○現代社会における公共性の問題について、アーレントらの思想について学習し、個人とコミュニティの関係について考えを深める。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>2</p>
1 月	<p>第5章 現代の課題を考える</p> <p>(2つのテーマを選び、学習)</p>	<p>1 生命</p> <p>2 家族</p> <p>3 地域社会</p> <p>4 情報社会</p> <p>5 文化と宗教</p> <p>6 環境</p>	<p>○今日の生命や死、医療の問題について理解を深め、人間としての在り方生き方について考える。</p> <p>○核家族、新しい家族形態、少子高齢化、高齢社会の中での「老い」などについて考える。</p> <p>○今日の地域社会のあり方について理解を深め、これからの望ましいコミュニティについて考える。</p> <p>○情報社会とは何か、その中でのメディア・リテラシーとはどうあるべきかなどを理解する。</p> <p>○グローバル社会における文化と宗教のあり方について考えを深め、多面的な見方や共生のあり方を模索する。</p> <p>○現在の環境問題の基本概念をふまえ、倫理的課題を明確にし、持続可能な社会のために必要な在り方生き方について考える。</p>	<p>(2)</p> <p>(2)</p> <p>(2)</p> <p>(2)</p> <p>(2)</p> <p>(2)</p>

		7 国際平和と人類の福祉	<p>○これまでの学習を踏まえた上で、現代世界における諸課題の倫理的問題について認識し、展望を探る。</p> <p>○物質的に豊かな社会の背後にある問題をはじめとして、本当の豊かさとは何かを考え、未来の福祉と世界の平和を構想しようとする意識を高める。</p>	(2)
--	--	--------------	---	-----

#### 4 評価の方法

##### (1) 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の四つの観点から把握するようにします。

関心・意欲・態度	<p>○人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。</p> <p>○倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。</p>
思考・判断・表現	<p>○他者と共に生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理課題などについて多面的・多角的に探究しようとしている。</p> <p>○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。</p> <p>○課題についての考察や判断の過程や結果を、様々な方法で論理的に表現している。また、それについての確に反省し、自己評価することができる。</p>
資料活用の技能	<p>○自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題に関して様々な資料を収集、整理し、情報を主体的に選択している。</p> <p>○諸資料を自己形成のために主体的に活用し、追究した内容などを様々な方法で適切に表現している。また、それについての確に反省し、自己評価することができる。</p>
知識・理解	<p>○青年期における自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題などに関した基本的な事柄を他者と共に生きる自己の確立の課題として理解している。</p> <p>○さらに、自己の人格形成や課題解決のために生かす知識を身に付けている。</p>

##### (2) 評価の時期と方法

ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況进行评估します。

イ 小テスト、課題提出状況や発表等を評価のための資料とします。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
数学	数学Ⅱ	2	3	全科	必修	数学ⅡStandard 東京書籍

### 1. 学習の到達目標

いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の規準	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分における考え方や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

### 1. 教科からのメッセージ

負の角や  $360^\circ$  より大きい角を考えたり、累乗の指数に自然数だけでなくいろいろな値が入れられるようにしたりして、数量の範囲を広げ、今までとは違った数学の見方、考え方をしていきます。また、座標を使って直線や図形の性質を調べたり、微分積分を使ってグラフを描いたり面積を求めたりします。このようなことを学習することで、数学の世界が広がり、いろいろな現象に対する有用性もわかり、数学を考える楽しさが増してくるはずです。

#### 4. 年間指導計画

【 数学Ⅱ 】	指導項目	進 度	【 数学Ⅱ 】	指導項目	進 度
第1章 式と証明 1 整式の乗法と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式の乗法・除法 5 分数式の加法・減法 6 恒等式 7 等式の証明 8 不等式の証明 9 相加平均と相乗平均		2年次 4月	第2節 加法定理 1 加法定理 2 加法定理の応用 3 三角関数の合成		3年次 4月
		5月		第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1 指数法則 2 指数関数とそのグラフ 3 対数 4 対数の性質 5 対数関数とそのグラフ 6 常用対数	5月
		6月			6月
			7月		
	第2章 複素数と方程式 1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数分解 5 高次方程式の解法	7月	第6章 微分と積分 第1節 微分法 1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 微分法の公式 4 接線 5 関数の増減 6 関数の極大・極小 7 関数の最大・最小 8 方程式・不等式への応用  第2節 積分法 9 不定積分 10 不定積分の計算 11 定積分 12 定積分の性質 13 面積		9月
		9月			10月
		第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行と垂直 第2節 円、軌跡と領域 5 円の方程式 6 円と直線 7 軌跡 研究 線分の中点の軌跡 8 不等式の表す領域 9 連立不等式と領域			10月
				11月	12月
				12月	1月
1月	2月				
第4章 三角関数 第1節 三角関数 1 一般角 2 弧度法 3 三角関数 4 三角関数の性質 5 三角関数のグラフ 6 三角関数を含む方程式・不等式	1月				
	2月				
	3月				

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
数学	数学B	2	3	全科	選択	数学B Standard 東京書籍

### 1. 学習の到達目標

ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。
---

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の規準	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

ベクトルでは力と力が合わさったり、ぶつかったりしたらどうなるかを考えます。また、数列では映画や本で流行っていた「ダヴィンチ・コード」でもフィボナッチ数列として登場しました。数字がある規則に従って並ぶことで数学的に考えることが出来ます。内容としては難しいところもありますが、それだけ、自由な発想や論理的思考力が身に付くのではないかと考えます。
--

#### 4. 年間指導計画

【 数学B 】	指 導 項 目	進 度
第1章 平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの和 3 ベクトルの差 4 ベクトルの実数倍 5 ベクトルの成分 6 ベクトルの成分と演算 7 ベクトルの内積 8 ベクトルの平行・垂直 9 内積の性質 第2節 ベクトルと平面図形 10 位置ベクトル 11 ベクトルと図形 12 ベクトル方程式	4月     5月     6月     7月
第2章 空間のベクトル	1 空間の座標 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分と演算 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 空間図形への応用	
第3章 数列	第1節 数列とその和 1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 6 和の記号 $\Sigma$ 7 自然数の2乗の和 8 いろいろな数列の和 9 階差数列 第2節 漸化式と数学的帰納法 10 漸化式と一般項 11 数学的帰納法	9月  10月  11月  12月  1月  2月  3月

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
保健体育	体育	3	3	全科	必修	なし

### 1. 学習の到達目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
評価の規準	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めているための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・プリントなどの提出物の状況、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

体育の授業では、体づくり運動、体育理論、選択制（希望種目）授業を行っており、学期ごとに種目を変えています。また、新体力テストの実施も行っています。

単に一過性の楽しさの追求だけでなく、技能を習得したり、高めたりする喜びや、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質を養うことが大切です。

年間指導計画 科目名 保健体育（体育） 3 単位 3 学年

学期	月	学習項目 (単元・考査など)	おもな学習内容
1 学期	4	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体に関心を持ち、自分の体力や生活に応じた課題を持って運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践することができるようにする。</li> <li>・体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようにする。</li> </ul>
	5	体づくり運動 (スポーツテスト含む)	
	6 7	体育理論 選択Ⅰ 陸上競技 ダンス 器械運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようにする。</li> <li>・互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。</li> <li>・リズムのとり方や動き方、相手との対応のしかたなど自由に工夫できるようにする。</li> <li>・まとまりのある動きを工夫して踊ったり作品にまとめ発表しあったりできるようにする。</li> </ul>
2 学期	9 10	体育理論 選択Ⅱ バレーボール ソフトボール ダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。</li> <li>・生涯にわたって親しめるように、各競技の特性や効果的な練習法、正しい審判法、ゲームの運営などについて理解する。</li> <li>・リズムのとり方や動き方、相手との対応のしかたなど自由に工夫してみんなで踊りを楽しみ、交流することができるようにする。</li> </ul>
	11 12	体育理論 選択Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。</li> <li>・生涯にわたって親しめるように、各競技の特性や効果的な練習法、正しい審判法、ゲームの運営などについて理解する。</li> </ul>
	1 2 3	バスケットボール サッカー バドミントン 武道（剣道、柔道）	
3 学期			<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに相手を尊重する態度や公正な態度で安全に練習や試合ができるようにする。</li> <li>・武道の特性や伝統的な行動の仕方を理解する。</li> </ul>



外国語	英語表現 I	2	3	全科	選択	SELECT English Expression I (三省堂)
-----	--------	---	---	----	----	-----------------------------------

### 1. 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

### 2. 学習の評価

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語 表現の能力	言語や文化についての知識・ 理解
評価の規準	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に英語で意思伝達を図ろうとしているか。	事実や意見などを論理の展開や表現方法に工夫しながら英語で伝えているか。	英語の語法・運用についての知識を身につけるとともに、背景にある文化を理解しているか。
評価の方法	授業態度、提出物、小テスト、定期考査、口頭表現テスト		

### 3. 教科からのメッセージ

英語は今では世界中で使われることが最も多く、国際語のひとつに考えられています。人と人をつなぐのは言葉であり、言葉が通じるのは世界中の人々と繋がりあえるということです。英語という世界共通の言葉を学ぶことにより多くの人々の考えを知ることができるからです。

「英語表現」では、これまで学んだ内容を応用しながら、日常使用されるやさしい表現を使って、身近な話題について英語で表現ができる基礎的な力を養います。授業を通じて、お互いの意思を伝え合う感動を味わってください。

### 4. 年間指導計画

教科書： SELECT English Expression I (三省堂)

A: コミュニケーションへの 関心・意欲・態度      B: 外国語 表現の能力  
C: 言語や文化についての 知識・理解

学期	月	学習項目	配当 時間	学習内容・言語材料	評価の観点		
					A	B	C
I	4	Introduction	5	・英語学習の目的 ・英語の学習内容・自己表現	○	○	○
	5	Lesson 11 はやぶさ2の挑戦	7	友達としていることについて書いたり話したりする表現に親しむ。 動名詞	○	○	○
	6	Lesson 12 不思議な絵	7	「芸術作品およびその作者」について書いたり話したりする表現に親しむ。 受動態	○	○	○
	7	Speaking Station 3 どこが違う？	6	違いや位置関係の説明など、描写したり、表現することに慣れる。	○	○	○
II	9	Daily Conversation 3 「道案内」の表現	7	特有の場面で使用される日常会話表現に慣れる。	○	○	○
	10	Lesson 13 ヒエログリフ	7	「過去に見た面白かったこと」について書いたり話したりする表現に親しむ。 分詞： 現在分詞／過去分詞	○	○	○
	11	Lesson 14 私たちの街にガオー	7	友達の特徴（得意なことなど）」について書いたり話したりする表現に親しむ。 関係代名詞： that, who, which	○	○	○

	12	Lesson 15 書道甲子園	6	忘れられない出来事」について書いたり話したりする表現に親しむ。 関係代名詞： what	○	○	○
Ⅲ	1	Lesson 16 どれが一番？	6	何か比べて自分の好きな方を選んで書いたり話したりする表現に親しむ。 比較表現	○	○	○
	2	Lesson 17 限りある水	7	昨日見た(聞いた)こと」について書いたり話したりする表現に親しむ。 知覚動詞／使役動詞	○	○	○
	3	Lesson 18 ピサの斜塔	4	タイムマシンがあればしてみたいこと」に表現する表現に親しむ。 仮定法過去	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
外国語	英語会話	2	3	全科	選択	Hello There! English Conversation (東京書籍)

### 1. 学習の到達目標

英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題に関する英語での会話を聞き取ったり、英語で会話したりできる基礎的な能力を養う。

### 2. 学習の評価

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語 表現の能力	外国語 理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
評価の規準	英語に関心を持ち、意欲的に授業に参加してコミュニケーションを図ろうとする態度が見られるか。	自分の考えなどを英語で表現しようと努力しているか。 標準的な発音で英語を話そうとしているか。	英語を聞いたり話したりして、相手の考えや話の内容を理解しようとしているか。	英会話で使用される基本的な語彙や語法などの知識を身につけているか。 また、言語の背景にある文化・習慣などを理解しているか。
評価の方法	授業態度、学習への取り組み、提出物、小テスト、定期考査、パフォーマンステスト、発表などをもとに、総合的に評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

英語は外国語の一つに過ぎませんが、今では世界中で使われることが最も多く、また、ほかの言語に比べ簡単に学ぶことができるため、国際語のひとつに考えられています。

人と人をつなぐのは、まず言葉です。お互いに言葉が通じるのは、素晴らしいことです。英語という世界共通の言葉を学ぶことにより、自分の思いを世界中の多くの人々に伝えることができるだけでなく、多くの人々の考えを知ることができるからです。

「英語会話」では、これまで「英語Ⅰ」、「英語表現」で学んだ内容を復習しながら、日常使用されるやさしい表現を使って、身近な話題について英語で会話ができる基礎的な力を養います。授業を通じて、お互いの意思を伝え合う感動を味わってください。

**You can do it! やればできる！ Let's challenge!.**

## 4. 年間指導計画表

教科書： Hello There English Conversation（東京書籍）

A: コミュニケーションへの 関心・意欲・態度

B: 外国語 表現の能力

C: 外国語 理解の能力

D: 言語や文化についての 知識・理解

学期	月	学習項目	時間	学習内容・言語材料	評価の観点			
					A	B	C	D
I	4	Lesson 1 Nice to Meet You	5	初対面のあいさつ 自己紹介の流れの理解 対話相手の発言内容理解と応答 be 動詞と一般動詞、助動詞 (shall)	○	○	○	○
	5	Lesson 2 Hello, Friends!	7	許可を求める・与える 相手について尋ねる・答える リストアップする 助動詞 (may)、疑問詞を用いた疑問文	○	○	○	○
	6	Lesson 3 My Favorite Music	7	意見を言う リストアップする 助動詞 (can)、What + 名詞を用いた疑問文	○	○	○	○
	7	Sakura's Adventure Episode 1	6	入国審査 ・ May I see your passport? ・ What's the purpose of your visit? ・ How long will you stay?	○	○	○	○
II	9	Lesson 4 What Are You Crazy about?	7	興味・関心を伝える 誘う・誘いを断る 現在進行形、助動詞 (would / might)	○	○	○	○
	10	Lesson 5 A Friendly Potluck Dinner	7	許可を求める・許可する 説明する 主語の省略と命令文、否定詞を含む疑問文	○	○	○	○
	11	Lesson 6 Are You All Right?	7	同情する 事情を理解する 現在進行形 (未来)、命令文	○	○	○	○
	12	Lesson 7 Talking about Our Town	6	描写する 距離・方角 時間と距離・方角に関する it の用法	○	○	○	○
III	1	Lesson 8 Traditional Culture	6	予定を尋ねる・答える 習慣を尋ねる 疑問文中の省略、未来を表す現在進行形	○	○	○	○
	2	Lesson 9 Equal Roles	7	感想・感情を述べる to 不定詞 + that 節、感嘆文 What a/an ～!、否定詞 not を含む疑問文	○	○	○	○
	3	Lesson 10 Helping Each Other	4	推測する・主張する 動名詞主語 What is ～ like?	○	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	課題研究	4	3	セラミック	必修	なし

### 1. 学習の到達目標

工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	身の回りの生活、環境に関心を持ち、その中から課題を自ら設定し、工業に関する基礎的・基本的な学習の上に立って、その課題を意欲的に解決する学習態度を身につけている。	とりまく環境の中から疑問を抱き、自ら課題を設定し、その解決方法を主体的に判断し、より良く解決する能力を身につけている。	資料を活用し、適切な材料を選択し、制作技術を研究していく中で、作品制作に必要な実践的な能力を身につけている。また研究成果を発表できる効果的な展示方法、発表能力を身につけている。	課題の解決を図るために、これまでに学習してきたことを十分活用する。さらにセラミックスに限らず、幅広く専門的な知識と技術を身につけ、工業の果たすべき役割や環境、関連知識について総合的に理解できている。
評価の方法	服装、研究態度、研究日誌、レポート、操作技能、作品展示、研究発表技能、			

### 3. 教科からのメッセージ

生徒自らが、作品制作、調査・研究・実験、現場実習、資格取得に関する4つの分野に関する研究テーマを設定し、計画の立案、制作、調査、研究などを行い、結果の整理・検討及び成果の発表を通して、研究を深めると共に専門性の深化を図ります。

年間指導計画 科目名 課題研究 4 単位 3 学年

学期	月	学習項目 (単元・考査等)	主な学習内容
一学期	4	計画的な研究の立案	グループ編成または個人制作の決定
	5	インターネット・図書文献等の活用	テーマ設定 年間研究計画の作成
	6	公的機関、企業等との連携方法を知る	情報・資料収集 調査・研究
	7	中間発表を行う。最終の研究発表の練習も兼ねる	各パート内での中間発表
二学期	8	情報・資料収集 調査・研究・制作	作品展示までを想定して作品制作を考える。 制作方法の計画を立てる。
	9		材料の購入方法を知る。
	10	情報・資料収集 調査・研究・制作	機械操作や材料加工技術を習得する。
	11	調査・研究・制作	
	12	研究・制作 作品完成	
三学期	1	展示発表の準備 研究発表の準備	理解しやすい展示方法の研究 研究成果の発表能力の学習
	2	卒業制作展での研究成果発表	研究成果のまとめ方の学習
		課題研究誌の原稿制作	

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	実 習	6	3	セラミック	必修	セラミック実習 セラミックス協会

### 1. 学習の到達目標

セラミックの各分野に関する技術や技能を実験や作業を通して体系的に習得させ、新技術に主体的に対応できる意欲と能力を育てる。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	セラミックに関する基礎的技術について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組む。	基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	セラミックに関する基礎的な技術を身に付け、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画する。	セラミックに関する基礎的な知識を理解しながら身に付け、課題の解決と適切に判断し得る能力を身につける。
評価の方法	実習態度・取り組み状況、課題作品・レポートなどの提出物の状況・提出期限などを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

- 一般コースは4パートに分かれて1年間をローテーションで行います。
- 酸化亜鉛系バリスタの試作
    - ①電圧が変化することで抵抗が変化する非オーム則素子であるバリスタを試作して電子材料系半導体セラミックスの基礎を学びます。
    - ②電気的測定・電子顕微鏡による評価を行い、物性測定の基礎の習得を目指します。
    - ③結果のプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション能力を養います。
  - 超伝導セラミックスの試作
    - ① 超伝導セラミックスとして一般的なイトリウム－バリウム－銅系を試作して、電子材料の一つであるエレクトロセラミックスの基礎を学ぶ。
    - ② 最適な合成条件を知るとともに、超伝導体に特有なマイスナー効果等の諸性質を実験によって確認する。
  - 各種釉薬の調合試験
 

各種釉薬の調合試験を行う。

それぞれの釉薬の性状は、それぞれに適する化学組成範囲や、用いる原料のちがひ、焼成の条件等により大きく異なってくることを理解し、調合試験をすることにより、良好な性状をもつ釉薬の調合割合を追求できることを理解させる。
  - ろくろ成形、機械ろくろ成形による器の制作
    - ・ろくろの基本的な技術、器が出来るように、しっかりと芯だしを行い有田で使用されている成形道具を使って成形する。乾燥後、成形物を仕上げカンナを使用して削りを行う。
    - ・機械ろくろを使い、器を成形する。

以下、次のような工程で（素焼き、施釉、窯詰め、焼成、窯上げ、合評会）を行う。

### 3年(実習—一般コース)年間指導計画表

単位数(6単位)

教科書(日本セラミックス協会)

	目 標	セラミックに関する各分野に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
月	学習項目	主な学習内容
	酸化亜鉛系 バリスタの試作	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子材料系セラミックスの基礎を学ぶ。</li> <li>2. 電氣的測定・電子顕微鏡による評価を行う。</li> <li>3. 結果のプレゼンテーションを行う。</li> </ol>
	エレクトロセラミックスの一種である超伝導セラミックスの試作	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子材料系セラミックスの基礎を学ぶ。</li> <li>2. 超伝導セラミックスとして一般的なY-Ba-Cu系を試作する。</li> <li>3. 超伝導体に特有な諸性質(マイスナー効果等)の実験を行う。</li> </ol>
	各種釉薬(結晶釉・色釉・光彩釉・窯変釉)の調合試験	<p>各種釉薬の調合試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釉の膨張係数の調整</li> <li>・釉の耐火性状の調製</li> <li>・釉の発色等の調製</li> </ul>
	ろくろ成形法  機械ろくろ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ろくろによる器の制作</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ロクロの基本的な技術、芯だしの学習</li> <li>2. 基本的な壺や花瓶成形の学習</li> <li>3. 成形物の基本的な仕上げの学習</li> <li>4. 成形物の焼成に至るまでの学習、合評会</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械ろくろによる器の成形</li> </ul>

※ 1年間を4パートに分け、ローテーションを行う。



教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	実 習	6	3	セラミック	必修	セラミック実習 日本セラミックス協会

### 1. 学習の到達目標

セラミックの各分野に関する技術や技能を実験や作業を通して体系的に習得させ、新技術に主体的に対応できる意欲と能力を育てる。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	セラミックに関する基礎的技術について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組む。	基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	セラミックに関する基礎的な技術を身に付け、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画する。	セラミックに関する基礎的な知識を理解しながら身に付け、課題の解決と適切に判断し得る能力を身につける。
評価の方法	実習態度・取り組み状況、課題・レポートなどの提出物の状況・提出期限などを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

#### ■陶磁器コース

- ろくろによる成形、石膏型による成形、板作り・ひも作りによる4つの成形技法についてその特質、約束事などを理解し、技能・技術に習熟することが必要です。
- 陶磁器作品展への出品を積極的に行ってもらうので、陶磁器制作についての制作意欲と制作態度を重視します。

### 3年(実習-陶磁器コース)年間指導計画表

単位数(6単位)教科書(日本セラミックス協会)

	目 標	セラミックに関する各分野に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
月	学習項目	学習内容
4 5 6 7	ろくろ成形	1.オリエンテーション 2.ろくろ成形の基本である菊練、芯だしの学習。 3.花瓶、花器、鉢などの大物成形の基本であるとかんの制作 4.牛べら、押しべらを使用し、成形する。 5.カナを使い、削り仕上げる。 6.素焼き、施釉、本焼、合評会
8 9 10 11 12	石膏型による成形	1.オリエンテーション 2.コップや湯呑みのアイデア考案 3.石膏を用いた原型の制作 4.石膏使用型の制作 5.泥しょうの鑄込み及び排泥 6.製型物の仕上げ 7.素焼き、施釉、本焼、合評会
1 2	板作り、ひも作り成形	1.オリエンテーション 2.作品のアイデア考案 3.作品のミニチュア制作 4.実寸での作品制作 5.ヤスリ、カナを用いた仕上げ 6.素焼き、施釉、本焼、合評会

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	セラミック技術	2	3	セラミック	選択	セラミック技術 (社)日本セラミックス協会

### 1. 学習の到達目標

セラミックの製造技術に関する基礎的な知識と技術を習得します。3年選択では、①溶融ではガラスの溶融や溶融窯の構造、ガラスの成形方法、徐冷などを理解し、②セラミックの加工では研磨材や工作機械の構造などを理解し、セラミックの各種機械加工法の理解を深め、③セラミックスの製造における評価法についても学習します。

### 2. 学習の評価

評価の観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
評価の規準	セラミックスの製造工程に関心をもち、その基礎的な操作や技術の習得に意欲的に取り組むとともに、品質管理や品質評価の重要性を認識する態度を身につけようとしている。また、環境、安全に関心を持つ。	セラミックスの製造に関する諸課題の適切な解決を目指して広い視野から単位操作法を選択し、製品の特性に応じた適切な評価法を考える。併せて、環境、安全にも配慮した操作法の活用についても考え、その成果を的確に表現することができる。	セラミックスの各製造工程での単位操作の基礎的な技術と技能を身につけ、製造現場における品質管理への活用などを合理的に計画する。	セラミックスの各製造工程に関する基礎的な事項と技術を理解する。また、製造現場において活用できるように、セラミックスの単位操作と品質管理、評価法、そして環境や安全に関する事項との関連が身についている。
評価の方法	授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

セラミック技術は、セラミックの製造工程と品質特性の技術・知識を学ぶと共に、それらの関係を有機的に結びつけ、理解する教科です。また、身近なセラミック製品が、どんな性質をもち、そのためにどんな方法で熱処理を受け、製造されたり、加工されたりして製品化されているのかがわかるようになると、更に関心が高まると思います。新聞やニュース等の最新技術にも注目しましょう。

年間指導計画

科目名 セラミック技術

2 単位

3 学年

学期	月	学習項目 (単元・考査等)	主な学習内容
一 学 期	4	品質の管理と評価 品質管理	品質管理の意義、定義と基礎
	5	セラミック技術と安全 環境保全と安全	公害対策と労働安全 セラミックス製造過程での粉塵、排水、換気など での公害対策と安全確保
	6	廃棄物の処理とリサイクル技術	廃棄物の処理・再資源化 廃棄物の処理、分類、再資源化
	7		セラミック工業の事業所と関係法規 公害防止管理者等
	8	加熱処理と溶融 溶融	ガラスの溶融について、溶融窯の構造や清澄 の原理
		ガラスの成形	ガラスの成形方法で宙吹き法などの人工成形 法と製瓶機などの各種の機械成形法
二 学 期	9	ガラスの徐冷	ガラスの徐冷操作
	10	ガラス繊維	ガラス繊維、石英ファイバーの構造
	11	溶融被覆	溶融被覆の各種について特徴を把握します。
	12	セラミックスの加工 研磨材と工具	研磨材や工作機器の構造・操作 切断、研磨、穴あけの機械的加工や化学的加 工、電気的加工
		セラミック加工	切削加工機械、切削工具各種と研削・研磨加 工機械などの性能を決める要素
三 学 期	1	セラミック加工	セラミックの各種機械加工法の実際について 加工法の特徴、加工方法
	2		

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	セラミック工業	2	3	セラミック	選択	セラミック工業 文部科学省

### 1. 学習の到達目標

工業材料の一つであるセラミックスを、産業としての視点から学び、ガラス、耐火物、セメントなどの特性、機能について分類整理、理解する。

また、製造に関する基礎的な知識と技術を習得し、その上で、さまざまな課題を解決し、かつ新しい製造技術を開発する能力を育てる。併せて、合理的な製造方法について科学的に検証しながら進めようとする態度を養う。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	ガラス、耐火物セメントに関する基礎的技術について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組む。上記の性質に関心をもち、その用途との関連について考える。また、その使用環境にも関心を持つ。	ガラス、耐火物、セメントに関する基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、特性の改良や用途の拡大などを創意工夫して考え、活用できる能力を身につける。	ガラス、耐火物、セメントに関する基礎的な技術を身に付け、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画する。これらの各製造技術と技能を身につけ、製品に対する創造的な表現能力を身につける。	ガラス、耐火物、セメントに関する基礎的な知識を、理解しながら身に付け、課題の解決に向けて適切に判断し得る能力を身につける。また、これらの環境面、安全面での評価について理解を図る。
評価の方法	授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、課題テスト、小テスト、出席状況などを総合的に判断して評価します。また、指導を受け容れる意識、改善への努力についても評価対象とします。			

### 3. 教科からのメッセージ

セラミック工業では、ガラス、耐火れんが、セメントなど、非常に身近で生活に潤いを与える、あるいは産業を支えるセラミックスについて幅広く学習します。大量生産されるものもありますが、機能性に優れた付加価値の高いものも多く開発されています。これらセラミックスについて、教科書の情報と、生活関連からの情報とをシンクロさせれば、セラミックスへの理解が深まり、その特性について更に関心が高まると思います。新聞やニュース等の最新の技術情報にも興味を持ちましょう。

学期	月	学習項目 (単元・考査等)	主な学習内容
1 学期	4  5 6 7	第3章 ガラスとほうろう 第1節 ガラス工業の歴史 第2節 原料と製造工程 第3節 いろいろなガラス 第4節 ほうろう 第4章 耐火物 第1節 耐火物工業のあらまし 第2節 耐火物の用途 第3節 耐火物の原料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガラスの起源やガラス工業の歴史について、製品を見せながら理解に導く。</li> <li>・ガラスの分類、歴史、製造工程について学びます。ガラスの原料と製造工程及び各種ガラスの製造について扱い、基礎的な知識と技術を学びます。ここではソーダ石灰ガラスの製造工程を例にとりながら学びます。</li> <li>・光ファイバーやレーザー用ガラスなど新しいガラスについてその特性を学びます。</li> <li>・世界の耐火物の歴史や日本での発展について実際に製品をみながら学びます。</li> <li>・産業と耐火物、原料と製造工程及び各種耐火物について扱い、耐火物に関する基礎的な知識と技術を学びます。粘土質煉瓦を実際に調合して焼成してみます。</li> </ul>
2 学期	9  10  11 12	第4節 耐火物の製造工程 第5節 各種の耐火物 第5章 セメント 第1節 セメント工業のあらまし 第2節 セメントの製造法 第3節 セメントの化学と性質 第4節 いろいろなセメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窯の図面をもとに定形煉瓦、不定形煉瓦、耐火断熱材など実物を見ながら鉄を製造する高炉を例に取り上げ耐火物の諸性質を学びます。</li> <li>・セメントのあらましと製法、いろいろなセメントの性質と用途について、実験例示をしながら学びます。</li> <li>・特殊なセメントの特性や用途を調べながら学びます。</li> </ul>
3 学期	1  2	第5節 セメントの用途	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モルタル、コンクリートの特性や用途を調べながら学びます。</li> </ul>

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
家庭	子どもの発達と保育	2	3	セラミックデザイン	選択	子どもの発達と保育教育図書

### 1. 学習の到達目標

子どもの発達の特長や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の規準	子どもに関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していこととする実践的な態度を身に付けている。	子どもの発達をふまえ、現状について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	子どもの発達の特長、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、課題・レポート・作品などの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

子どもの発達と保育では、子どもとのかかわりが子どもの育ちにとってとても大切な役割を持っていることを学びます。また、自分のあり方を振り返るということでもあります。さらに、保育とは子どもとともに育ちあうことといえるでしょう。

親だけでなく子どもを取り巻くすべての人々が、子どもの育ちについて学び、どのようにしたら人はいきいきと成長していくことができるのかを考えていきましょう。

「子どもの発達と保育」年間計画      単位数（2 単位）      教科書（教育図書）

月	学習内容	ねらい
4	1 章   子どもの発達の特性 1 節   発達と乳幼児期の意義 実習：マスク製作 あかちゃん甚平製作	・子どもに関心を持ち、乳幼児期の意義について理解する。 ・子どもの快適な衣生活について理解する。
5	2 節   発達と環境 発達と保育環境のかかわり 実習：あかちゃん甚平製作	・子どもの発達と保育環境のかかわりについて知り、保育環境を整えることの重要性について思考を深める。 ・被服製作をとおして子どもの衣生活を管理する力を身につける。
6	2 章   子どもの発達過程 子どもの発育 子どもの精神発達 実習：絵本の読みかたり	・生命の誕生について関心を持ち、乳幼児の身体的特徴と生理的特徴についての知識を習得する。 ・子どもの精神発達の特徴を学び、乳幼児期が人格形成上大切な時期であることを理解する。 ・絵本の読みかたりをとおして子どもの精神発達を考える。
7	3 節   人間関係の発達 実習：離乳食おやつづくり	・人間関係の発達と子どもの人格形成について思考を深めるとともに、反抗期や子どもの行動の特徴を理解する。
9	3 章   子どもの生活 生活と養護 子どもの遊び 実習：音楽リズム表現技術	・子どもの健康を維持増進し順調な成長を促すうえで、発育や発達に応じた養護が必要なことを理解する。 ・子どもは遊びを通して発達することを理解し、遊びの援助ができるようにする。
10	子どもの健康と生活 子どもの食事 子どもの衣服 子どもの健康管理 実習：造形表現技術	・基本的生活習慣と社会的な生活習慣の意義と重要性を理解し、子どもの発達に即した適切な生活習慣について考える。 ・子どもの健康を守るための保育者の役割と子どもの病気・事故の特徴を知り、予防の必要性を理解する。
11	4 章   子どもの保育 1 節   保育の意義と目標 2 節   保育の方法 実習：保育の環境	・保育の意義と重要性に関心を持つ。 ・家庭保育と集団保育のそれぞれの特徴や役割を知り、子どもの発達に両方が必要であることを理解する。
12	5 章   子どもの福祉	・子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。
1 2	2 節   子育て支援 実習：絵本づくり	・子育て支援の意義と現状を理解し、課題と展望を考える。 ・子どもの児童文化財である絵本について学び、子どもの発達に応じた絵本を製作する。